

令和6年度第2回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議 議事概要

日 時	令和6年10月29日(火) 15:00～
会 場	掛川市役所5階 全員協議会室

■出席者(敬称略)

No	所属等	氏名	出席状況
1	静岡大学 グローバル共創科学部 教授	須藤 智	出席
2	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 常務理事	藤原 学	出席
3	桑原淑浩司法書士事務所	桑原 淑浩	出席
4	ソフトバンク株式会社(掛川市役所 企画政策部 企画政策課 参事)	尾村 義隆	出席
5	NPO 法人かけがわランド・バンク 理事長	丸山 勲	出席
6	島田掛川信用金庫 島田本部 地方創生室 室長	齊藤 奈津子	出席
7	掛川市農業委員会 委員	鈴木 深雪	出席
8	掛川商工会議所 中小企業相談所 所長	山下 真弘	出席
9	医療法人 綾和会 掛川東病院 院長	宮地 紘樹	出席
10	社会福祉法人 大須賀苑 高齢者福祉事業部 部長	伊藤 文子	出席
11	掛川市社会福祉協議会 地域支援課 生活支援係 係長	堀場 美和子	出席
12	掛川市地区まちづくり協議会連合会会長	鈴木 浩	出席
13	株式会社LPフィナンシャルマネージメント 代表取締役	山崎 直人	出席
14	元掛川市教育委員	永田 孝明	出席
15	一般社団法人 日本承継寄付協会 代表理事	三浦 美樹	出席

発言者	発言内容
1. 開会	
事務局	<p>皆様こんにちは。</p> <p>本日は、ご多用のところ、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、第2回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議を開催いたします。</p> <p>本日の予定でございますが、この後、議事に移り、概ね1時間30分を目安として会議を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p>
2. 会長あいさつ	
会長	<p>本日はお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>今回、事務局で、これまでの専門領域のカテゴリーを再調整されたそうです。その中で、色々な社会の課題を解決していくには、色々な分野が共同で、横ぐしを刺しながら行うために、カテゴリーを整理していくことは難しいと感じた次第です。</p> <p>今回お集まりいただいている皆様のご意見を、いろんな分野の方々が、一つの課題に対して色々なご意見いただいて、それを皆さんが共同で解決していくという視点がとても重要と感じておりますので、今回も活発に色々なご意見をいただければと考えている次第です。</p>
2. 市長あいさつ	
市長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日は第2回になります。ご多用中のところをご参集いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>前回、とてもいいご議論をしていただき、想像していた以上に、皆さんが積極的に多死社会という課題に対して、力を込めてご議論いただき、感謝しております。</p> <p>もうすぐ11月になりますが、広報かけがわが皆さんのお宅に届いてるかと思いません。広報の中に市長クラブというコーナーがあります。今回、多死社会について、会議を設置したことを含めて、書かせていただいておりますので、市としてもこの多死社会の会に力を入れていきたいと思っております。</p> <p>また、元々のこの会議は3回を予定していましたが、もう少しご議論いただいた方が良く思っています。1回延長したいと今考えており、ご相談をしておりますので、皆さんのご都合よろしければ、より充実した内容で答申をいただけるとありがたいと思っております。</p> <p>本日もよろしくお願申し上げます。</p>
3. 資料説明	
企画政策部長	<p>それでは、事前に配布をさせていただきました資料1「多死社会のまちづくりの現状および課題、対応策」をご覧ください。</p> <p>まず、今回の資料は、前回の会議でのご意見などを基に、次の3点について追記及び修正などを行っています。</p> <p>1つ目が、カテゴリーの変更です。</p> <p>前回、行政の業務の目線で「負動産」「産業」「介護・健康・医療」「地域コミュニティ」「終活」の5つの分野に分けていましたが、課題への対応が必要となる対象者の視点で「人」「コミュニティ」「企業・労働」「公共」の4つのカテゴリーで整理し</p>

発言者	発言内容
	<p>なおしました。</p> <p>2つ目が、委員の皆様のご意見の記載です。</p> <p>前回の会議で委員の皆様からいただいたご意見を要約して記載させていただきました。記載したご意見は、今後の会議でも掲載したままとさせていただきます。</p> <p>3つ目が、いただいたご意見に対する対応策の追記、修正です。</p> <p>前回いただいたご意見の対応策と変更された箇所は赤字で記載させていただきました。</p> <p>以上の3点となります。</p> <p>本日は、変更した点について追加のご意見をいただくとともに、資料に記載の課題や対応策は、多死社会において自治体だけの課題ではなく、社会全体の課題と考えておりますので、市役所や地域、企業などがどのように関わり合い、役割を担えばこれらの課題を解決することができるかなども踏まえて、ご議論いただきたいと思っております。</p> <p>また、改めてとなりますが、本会議は多死社会の到来に対して、人口が減少しても市民が安心して生活し続けられるまちづくりを目指すことを目的としており、ご意見は第3次総合計画策定に向けた基礎資料とさせていただきます。</p> <p>本会議で可能な限り課題を洗い出し、その課題を解決するための対応策や、対応策を検討するための視点についてご意見を集めさせていただき、各カテゴリーの方向性や重点的に行うべきことについてまとめまいりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>説明は以上となります。よろしくお願いいたします。</p>
4. 議事	
会長	<p>それでは次第の3にあります、議事に移ります。</p> <p>本日は2回目の会議となります。</p> <p>皆様の活発なご意見、ご議論をいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からの説明でもありましたが、本会議は掛川市の総合計画策定に向けた、多死社会における課題を洗い出し、課題に対して行政のみではなく社会全体で、どのような対応できるかを検討させていただき、会議にご認識いただきたいと思っております。</p> <p>その点を踏まえ、本日の会議ですが、3つの視点でご意見をいただいきたいと思っております。</p> <p>まず、事務局から事前に配布された資料について、前回、行政の業務の視点で分類をした「負動産」、「産業」、「医療・健康・介護」、「地域コミュニティ」、「終活」の5分野から、課題への対応が必要となる対象者の視点で「人」「コミュニティ」「企業・労働」「公共」の4つのカテゴリーに変更しておりますので、4つのカテゴリーが適切かどうか、カテゴリーごとにご確認をお願いします。</p> <p>2つ目は、前回の会議でのご意見を基に、追加・修正された対応策が、適切な内容となっているかどうか。</p> <p>3つ目は、対応策や前回の会議での皆さんからのご意見について、どのようにしたら実施できるのかなどの議論を深めていただくことや、前回お時間の都合でご意見できなかったことがありましたら、ご発言をお願いします。</p>

発言者	発言内容
	<p>この3点でご意見・御議論をお願いいたします</p> <p>1 カテゴリーごとの時間は18分ほどとなっております、多くの方からご意見をいただきたいため、ご発言は簡潔をお願いいたします。</p>
カテゴリー1 「人」	
会長	<p>初めにカテゴリー1の「人」についてです。</p> <p>まずこのカテゴリーについて、現状と課題などがこのカテゴリーに属するのが妥当かどうかも含めて、ご意見をお願いします。</p>
委員	<p>目次ですが、分野別と対象者別のマトリックスのようにできないですか。</p> <p>例えば、空き家にしても、最後の公共にも関係するものだと思います。</p> <p>分野と対象で丸バツをつけるなどをすると、見る人によってわかりやすいと思います。</p>
会長	<p>今回サービスを受ける側の方の視点からまとめられたということなので、そのやり方は一つあると思います。</p> <p>これが実際のサービスを提供する側の方から見たときにどこに属するのもも含めて、そういった見せ方は、一つアイデアと思います。</p> <p>カテゴリーに入ってる内容が色々あり、全て妥当かどうかは、全体を見ながら行っていくことが重要だと思います。</p> <p>ポイントとして、この課題を実際誰が取り組むのかを整理することが、今後していかななくてはいけないことだと思います。</p> <p>当てはまらないときは、柔軟に変えていけばよいと思いますので、カテゴリーの妥当性に関しては、この後の議論を踏まえて、整理していきたいと思います。</p> <p>二つ目の前のご意見をもとに、追加修正された対応策が適切な内容になっているか、ご意見をお願いします。</p>
委員	<p>2ページの【空き家の増加】の【啓発】の2行目に「建物の高いうちに処分」とあるが、「売買」と書いた方が、お金になるうちに変えたほうが良いという促進になると思います。処分という言葉は冷たい感じになるので、相手を取りやすい言葉にしたほうが良いと感じました。</p>
会長	<p>大切な資産で、その資産をどうするかという観点なので、対応する方の身になってということだと思います。</p>
委員	<p>3ページの意見の欄で、前回、空き家を駄菓子屋のような活用をしてはどうかと意見しました。「1人住まいの方がいるところで」とありますが、そういう意味合いではなく、お年寄りや一人、二人で住んでいる方のお宅を、空き家になる前に活用できないかということです。空き家を2年、3年そのままにしておくのは良くないので、言わせてもらいました。</p> <p>昔は駄菓子屋がどこの地域にもありましたが、今は老人等の憩いの場として、駄菓子屋等をやれたらいいねと地方でも話が出ていますので、空き家をそのような活用ができればいいなと思いました。</p>
会長	<p>空き家を活用したい人が、その空き家をスムーズに活用できるような仕組みがあるとよいというご意見で良いでしょうか。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>空き家になってから空き家を探すのではなく、現在お住まいのお宅に協力していただき、地域の人と一緒にやっていただくことが、住んでいる方にもプラスになるのではないかという意見です。</p>
会長	<p>空き家になった後ではなく、空き家になる前に何らかの対応ができる仕組みが必要というご意見です。</p>
委員	<p>静岡県司法書士会として、空き家の研究会などが存在しており、空き家の協定を結んでいる市町村がたくさんあります。</p> <p>掛川市にも締結していただき、静岡県司法書士会として、掛川市の問題に取り組みたい、取り込む準備ができているということをお伝えしておきたいと思います。</p>
委員	<p>介護・医療・保健について、介護力不足と認知症が増え、医師不足、医療機関不足とあります。掛川市も少しずつ人口が減っていく。生産年齢人口が減る中で、支える高齢者が増えていけば、介護を支える力が不足することは、必ず起こり、避けようがないです。社会保障が限られているので、同じことをしていれば、安心して今までと同じような暮らしができるということは確約できない、ということが前提にあると思っています。</p> <p>住民が今までと同じようにできると思っていることがとても難しい状況で、何もしなければ自分たちはいろんなものを失っていくという危機感を、啓発や共有していく機会をどんどん作っていかないといけないと思います。</p> <p>実際に、もう少し人口が少ない市町では、病院の病床が減ったり、産婦人科、小児科がなくなったりし、隣町まで行かないといけない。離島の場合は、本土まで行かないと子供が産めないなどがあります。</p> <p>今まで、あって当たり前の介護力や医療機関が失われていますので、我々の地域でもそういった痛みを伴うことは必ずやってくるというのは、全員が認識しないといけないこれから起こる事象だと伝えていく必要があると思います。</p> <p>そういったことがあることがわかっているならば、準備がある程度できることもあると思います。</p> <p>それは、1人1人ではできず、「人」ではなく、次の「コミュニティ」や「公共」の部分で議論する形になると思いますが、対応力や、支える力が減っていき、我々は失うものがこれからあることを、まず共有する機会を作ることが非常に重要であり、それがあって初めて、次に何をしよう、何を準備しよう、何を確保しよう、そういった動きが出ると思います。</p> <p>そういう状況に日本、掛川市もあるということ認識していく機会が非常に重要になってくると思います。</p> <p>その上で介護力に関しては、一つは効率化で施設などに集まる場合があります。もう一つは効率化を選ぶと、個人の自由やプライベートのことが少し失われることがあるので、次の「コミュニティ」で、どのように1人1人を支えるのか、のような連携が必要になってくると思います。まず、この「人」に関しては、我々がそういった力を失っていくベースにあることを認識して欲しいところです。</p> <p>ですので、一番初めの介護力不足の、介護認知症予防に関する正しい知識・理解・</p>

発言者	発言内容
	<p>普及・啓発は、そういった危機感や今後どういったことが起こるということは予測しうるのだと思います。4ページの(2)において、正しい知識・理解ということがぼんやりしていて、何のことかわからないので、そういった危機感を明確に書く必要があると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>これからの介護・医療・保健の状況の予測をしっかりと市民が理解することはとても重要で、そういった状況を理解してみんなでまちづくりに関わっていくことや生活をきちんと作っていくことが重要な仕組みだと思いました。</p> <p>(3)の介護人材不足については、重要な問題と思っています。</p> <p>介護人材をどのように維持していくか、増やしていくかという取り組みを考えていいのではないかと考えております。</p> <p>実際、色々な地域で介護人材をどのように確保していくかという新しい取り組みを、色々な行政機関で行っているところもあるので、そういった情報収集をして、掛川市にマッチした仕組みをうまく取り入れていくことを、医療福祉関係の皆様と一緒にやっていくのも方法の一つだと思います。</p> <p>また、高齢者、若者のシェアハウスを色々な県で実施したところがありますが、正直なところ成功事例は見えていないのが、今の私の理解です。</p> <p>例えば大学があるところで、大学の寮などと実施するという理想的な絵はありましたが、なかなかうまくいってなさそうな雰囲気です。そういう意味では、掛川市にどれぐらいの若者がいるかを計算した上で、どういう政策が良いのかと考えた方が良いと思います。</p> <p>若い人が一定数いて、その方々が介護の人材になっていくという現実もあると思いますので、そういった方々が将来の絵を描きながら、介護の仕事の中でしっかりと自己実現していけるような労働環境を作っていく、それをサポートしていくなど、そういった視点を持つことが重要と個人的には思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>6ページの(5)【認知症高齢者の増加】の「成年後継人が必要な対象者が増加するとともに、成年後見の育成者や市民、専門職の成り手が更に不足する。」について、任意後見制度も含めた成年後見制度の周知は大事だと思います。</p> <p>社会福祉協議会を含め、現場で法人後見や市民後見人の養成に携わっています。</p> <p>その中で、実際に後見人はお金がある人しか使えないこともあり、報酬について意見されていますが、現実はかなり厳しく、成年後見制度も市長申し立てをすると、申立人がいなければ、その費用は公費から、報酬が払えない人は税金から支払っており、結局公費で賄うことが多くなってくると思います。</p> <p>市民後見人の育成も簡単ではなく、市民後見人が単純に請け負える案件は本当に少なく、請け負う方のハードルもものすごく高いと思います。</p> <p>私達も市民後見人にしたいと思っても、色々な課題があります。もちろん周知は大事ですが、現実には厳しく、みんなが任意後見や成年後見を利用すれば大丈夫、それがあるから大丈夫というような啓発の仕方は危険と思っています。</p> <p>それを利用しなくても、家族や家族の形が少し変わってくれば、子ではない親族、甥や姪との生前の繋がりなどの関係も含めて考えていかないと難しいのではないかと</p>

発言者	発言内容
	<p>と思います。</p> <p>そのようなことを含め、これがあるから大丈夫、それだけ利用すれば良い、というような啓発の仕方ではないというところも考えた方が良く思っています。</p>
委員	<p>甥、姪がいてくれることがあれば、後見人の心配がないです。</p> <p>ですが、企業誘致で遠くから来た方々は、元々ここに親族がいない、子供もいない、自分たち2人が生きてきた方が、どうしたらいいんだろうというときに、そういった方たちを助ける部分として、これは絶対必要だと思います。</p> <p>親族がこの地域で生まれ育った人間、もしくは県内、遠州地区の人であれば、何となく近くで助けられるなっている人たちは、その枠に入らないですが、企業誘致できた方々で、親族がいないという方々を立場的に多く見てるので、そういった人たちに対して、こういうものが必要と感じています。</p>
委員	<p>任意後見に関しては、私は今、東京ですが、地元は牧之原で、両方の現場がわかる状況の中で、今お話があった通り任意後見の成り手がいないということは、今、初めて知りました。</p> <p>東京では任意後見制度の成り手は十分にいる状況で、制度自体に対しての使いにくさや、家族信託の制度を使い、他のことをやろうという取り組みがあったとしても、任意後見自体のなり手について議論はあんまりされてないと思いながら聞いてました。育成した場合、対象となる方々はいらっしゃいますか。</p>
委員	<p>任意後見制度は、包括支援センターで関わったり、進めたりしますが、任意後見制度はすごく良いと思いますが、タダではないので、報酬を払えない方が多く、事前にお金が払えない。</p> <p>そうすると、身内の方に見かけ人になっていただければ、約束で、となります。田舎なので、身内であれば任意後見をしなくても甥や姪が何かあったときはやります、という方はいます。</p> <p>その時は良いですが、いざ施設に入るときに甥、姪では、例えば、病院に行くときの保証人まではなるが、お金のことや相続のことまではやりません、となってしまうことが多いです。まずはお金のかからない人に頼っておきますが、亡くなった時や、病院での判断、お金のことになった時には、もう本人が任意後見をやる能力が無くなってしまっていて、結局家の処分もそのままになってしまいます。</p> <p>甥や姪もそこまではできないことが多いという現状があります。</p> <p>今、介護でも体裁的に預けたり施設に入れたりせず、在宅で見ているという方はあまりおらず、入所することへの抵抗は以前ほどないです。入れる施設があれば入ってもらい、代わりに面会へ頻繁に来て、関わりを続けることが、好感を持たれている家族の姿と思います。</p> <p>在宅にする理由は、施設に入るお金がなくて、家で見ざるを得ない。在宅で介護されてる方が幸せかという、必ずしもそうではないです。結局はお金で、任意後見がなかなか進まない。そんな環境で在宅にいて、亡くなるので空き家になってしまうことがあると思います。</p>
委員	<p>お金の問題でないのであれば、地域のコミュニティで互助の力を使っていくのが</p>

発言者	発言内容
	<p>良いのではないのでしょうか。</p> <p>各地域で、そこに入れない人たちの助け合いっていうところを地域でどのように作っていくのかと思いました。</p>
委員	<p>任意後見制度は、金銭的基盤がある方たちは、任意後見制度を積極的に使っていただければ良いと思っております。包括と連携する中でも、払える方を否定するものではなく、基盤がある方は使っていただき、そうではない方たちは専門職が支えるというやり方がものすごく大事と思っておりますので、そこは両輪でいけるといいと思います。</p>
会長	<p>難しい問題だと思いますが、任意後見制度を単純に周知するだけでは駄目で、どうやって使うかというところが、それぞれの色々な施設などで、こういった場合はこういうふうに使えるということも含めた、多様な方への啓発をしていくべきであると理解しました。</p>
委員	<p>前回、空き家を使う人に安心してもらうために、断熱性とか耐震性などを見える化をすることで、中古住宅だからという不安感をなくせると言い、間違いないと思いますが、もう少し引いて考えると、まずこの地域に住む理由や、何か暮らしを達成したいものがあるから掛川に住みたいということだと思います。</p> <p>色々な事例があるとは思いますが、例えば掛川は自然が豊かなので、空き家に住んで住居費用を抑えながら住むことで、例えばこういうことが実現できるんですよ、農のある暮らしが実現できるだとか、朝仕事行く前にサーフィンしてからというような生活がリアルできていますなど、そういった情報提供というか、空き家の利活用の理由になるようなものを打ち出すという内容に入れてもらうと、掛川いいな、住みたいなということに繋がっていくと思います。</p> <p>新しい住居を必要としている人たちは確実にいて、私にも相談あります。夢を持った人たちがいるので、そういう人たちを繋げてあげるような情報提供ということをして、入れといていただくと良いと思いました。</p>
会長	<p>ロールモデルをきちんと提示して、自分の生活パターンを新しい市民の方も含めて提示していくということですね。</p>
委員	<p>8ページの【地域スポーツ施設及び交流機会の減少】について、今掛川市は中学校の部活の地域移行を先進的に、積極的にされています。</p> <p>先生の働き方改革あるいは人口減少により、やむを得ずどうしても進めていかなくてはいけないと思いますが、中学生本人たちにしてみると、今までは例えば吹奏楽で、消去法で吹奏楽に入った子でも、何か楽器を割り当てられて、それが楽しくて、一生の趣味になる、あるいはそれをもとに掛川市に戻ってフィードバックするということができていました。</p> <p>これは外部団体に移行するのであれば、本当にしっかりやっておかないと中学生たちが迷ってしまう。</p> <p>そういう若者たちが生き生きとしていない社会となると、大人の魅力を感じないということに繋がる可能性もあるので、この問題は中途半端にやってはいけないと思っています。これは行政だけでできることではないので、民間も力を入れてやって</p>

発言者	発言内容
	<p>もらいたいです。</p> <p>そして自分としても、全体、地域見ながら、いろんな意見を聞きながら動いていきたいなと思っている分野です。</p>
会長	<p>最後に気づいた点で、(5)の「認知症に対する理解が不足している」について、市民の方の理解が不足しているという項目だと思いますが、対応策の2段落目に、eスポーツなどで脳に刺激を与えることが必要です、に関して、これは認知症予防の話と思うので、ここに入るのではない気がします。</p> <p>あとは意見に、認知症に対するリテラシーを高めるため、VRを用いた等を使ったあり、今流行りでVRを使った日常体験というものがあるのことは承知しています。</p> <p>先ほど、子供の話も出てきましたが、教育現場で認知症の方々と接することは、子供にとってもいいことですし、逆に子供が理解すると親も理解すると思いますので、教育の中で認知症をうまく取り上げてもらうなど、そういった機会があってもいいのではないかとこのところで、意見を追加していただければと思います。</p>
<p>カテゴリー2「コミュニティ」</p>	
委員	<p>10 ページのシニアクラブの問題ですが、シニアクラブそのものを解体している地域が多いです。</p> <p>先日、シニアクラブ連合会の会長さんと話をした際、まちづくりとしても協力していただき、シニアクラブを作っていただきたいという要望がありました。地元へその話をしても、以前は年齢が来ればほとんど会へ入っていましたが、今は皆さん活発なので、年齢が来てもシニアクラブが入らない方が多く、特に女性の方が入っていただけません。</p> <p>会そのものの存在価値や魅力がないのかもしれませんが、本来は入りたいと皆さんが来るのが一番良いですが、地区で問題になっています。</p> <p>シニアクラブを存続していくにはどうすれば良いか。それと、皆さんに話を聞くと、シニアクラブに入るのではなく、趣味のあった方同士が活躍しており、少人数グループは皆さん有効に使っていますが、シニアクラブには入ってこないという問題点もあり、提案をさせていただきました。</p>
会長	<p>シニアクラブの問題は、私も興味があり研究をしていますが、静岡市に静岡団塊創業塾というシニアクラブのようなNPO法人があり、市民の方たちが自分たちで企画、運営しています。そこはかなり活発に活動されていて、シニアカーが全くないシニアクラブのような雰囲気です。いろいろ事例があり、行政はどのようにシニアの方々が活動できるように支援するかなどを含めて考えていくことが必要だと思いますし、コミュニティとしてシニアクラブのように、人が集まる場を作っていくことが重要なことだと思いますので、政策の中で考えていただければと思います。</p>
委員	<p>今回、対象別に分けていただいたおかげで、色々な方と同じ場で話せることは良いと思った反面、コミュニティという言葉に色々なコミュニティが入っていると思いますので、一緒にすると整理がしにくいと感じました。</p> <p>近所の人と話をして情報を集めるコミュニティもあれば、自治区のようにまちでなくてはいけないことを、みんなで協力して行うようなコミュニティ、まちの課題</p>

発言者	発言内容
	<p>を解決して実践しながら新しいものを作っていくコミュニティなど、色々あると思いますので、それぞれに対してどのようなコミュニティを作っていくかは、一緒のコミュニティでは難しいと思っています。</p> <p>多くの場合、自治区に関しては、人手が足りないことと、核家族化が進み、横の繋がりがなくなっており、シニアクラブのように集まってみんなで何かをすることはやりにくので、どういう機能をそのコミュニティに持たせるかを再定義しないといけないと思っています。</p> <p>もう一つ、空き家の問題をどう活用するか、介護をどうするかは、現時点で答えがなかったり、地域によって異なるので、隣のうまくできているまちからそのままというわけにはいかないところもあります。実践をしながら課題を解決しているコミュニティに関しては、誰がそのステークホルダーで、どのようにやっていくかを、もう少し明確に見せていき、「このまちでこういうことを行っているのはこのコミュニティや、この団体です」ということを、もっと見せていくことが必要と思います。</p> <p>掛川市にもSDGsプラットフォームがあり、課題意識を持って積極的に何か進めていきたいという方々はたくさんいると思うので、そういった方たちの活用も含めて、こういう人たちが地域の課題を解決していくステークホルダーです、ということを見せることで、もっと活発にコミュニティが出ていくと思います。</p> <p>コミュニティは色々あると思っており、特に医療や介護に関してはお金もないため、かなり難しく、病院もそうですし、医療や介護と全く関係がないような企業や行政と協働しながらやっていますので、そこを見えるようにしたり、一緒にやっていく窓口を増やすことは、この地域のソーシャルキャピタルを非常に豊かにしていく原動力になるのではないのでしょうか。</p> <p>非常に良いテーマで、皆さんと今後も活発に話していけるといいと思います。せっかくSDGsプラットフォームがあるので、何とかその辺を見せつつ、盛り上がるいいなと思いました。</p>
会長	<p>コミュニティっていうキーワードは重要なキーワードですが、コミュニティの中に入れてる問題を細分化や、別のカテゴリーに触れる問題もあるので、整理してみても良いというご提案です。</p>
委員	<p>JRが出版している10月号のウェッジを私にくれた方がいました。「孤独・孤立社会の果て」、次に、「誰もが当事者になる時代」と書かれています。自分が当事者になるかもしれないってことをしっかり考えながらこの問題に入っていくとわかりやすいと思います。</p> <p>コミュニティも孤立の方が楽だと思いますが、自分が10年20年後に年を取ったとき、自分がいなくなっても、家族がこのコミュニティの中で生きていかななくては行けないということを連想させることなどが書いてあります。</p> <p>誰もが当事者になると考えると、自治会コミュニティに入るのをやめるのではなく、自分の生涯設計をしていくときに、ここの中でどうやって生きていくかを連想させると、コミュニティに入ってくる人が増えるのではないかと感じました。</p>
会長	<p>それをきちんと想像できるかどうかは、1人1人が学び、考えなくては行けない。</p>

発言者	発言内容
	それをどういっかけて考えてもらうか、学んでいける機会を提供していくことは重要と思います。イベントをしたから学べるかはわからないですが、何かしらのアイデアで解決をしていく必要があると思いました。
委員	<p>金融機関の窓口のことで、一人暮らしの方が、認知症かなと思う方がよく来店されます。例えば、この半年間でキャッシュカードの再発行依頼が何回も出ていたり、お金をおろす暗証番号を忘れて3回間違えたため使えなくなり、再発行が出てくる場合があります。明らかにおかしいと思ってもそのまま帰っていただくしか金融機関としては術がないです。</p> <p>この会議に出てから事例が多いと感じたので、行政と協力して連絡できる仕組みなど、何かできないでしょうか。</p>
委員	窓口から直接包括支援センターにご連絡いただくケースも多く、企業によっては認知症のサポーター養成講座を受けていただいています。他の包括支援センターでも、金融機関から認知症の疑いがあるので何か始めたほうが良いのではという相談があります。
委員	何度も来ておかしいが帰してしまっており、窓口の職員は言って良いのか悪いのかわからないという話を聞きます。
委員	公的ではなく、気軽に相談できる場所ですね。
会長	地域包括支援センターの仕事として、そういった方々をうまく見守ることや、関わって支援に繋げていくことがあります。例えば個人情報の問題など色々あると感じますが、妥当なラインが、どういうものなのかがきちんと啓発されて、みんなで理解しなくてはいけない。そこがコミュニティとして、うまく連携を取り繋がってるところを市としてはコンセンサスがあるようです。
委員	包括支援センターなどが、どの人が認知症を全てキャッチしていくことは難しいので、生活の場面で困られた方で、1ヶ月ごとに毎回再発行してますと言ったらこの方怒るかなという場合は、例えば銀行で「半年以内に2回、3回発行された方には皆さんお声掛けさせてもらってますが、他にも困ることないですか。こういうところで相談できます。」といった形で紹介いただける機会が増えたり、すぐに行かなくても家に置いておいてもらい、困ったときに行ってくださいという形でも繋がると思います。
会長	<p>認知症の方々がこれから増えていき、地域の中でみんなで支援していくことはとても重要で、地域包括支援センターでは、福祉系の仕組みと、企業の方々、地域の方がうまく連携できることです。</p> <p>自分は、介護をどうしたらいいと聞かれたら、まず地域包括支援センターに行ってみると始まるよとお伝えするように周りの方にしています。そこがきっかけだということを理解することはとても重要なことだと思います。</p>
委員	若い窓口職員はそこにはいないので、ルール作りができると思います。
会長	地域包括センターも色々なところがありわかりにくいので、地域の金融機関などで、認知症の方々についての連携も色々あると思います。

発言者	発言内容
委員	<p>(1)に民生委員に関することがあります。コミュニティは自発的に色々したり、役割を楽しんでやる方がリーダーをしていくのが良いと思いますが、今の民生委員は年々義務感となぜやらなくてはいけないのか、自分たちには荷が重いなど、ギャップがすごく大きいです。民選委員のみなさんは個人情報や守秘義務があり、プライバシーに入りたくないと本当に困ってる。</p> <p>報酬の問題ではなく、回ってきたからどうしてもやらなくては行けないということ、国や行政から言われてやることで、本当はやりたくない、本当はこんなに関わりたくないというところが多いです。地区によっては、やりがいと感じている方もいますが、民生委員の意識のギャップが大きいです。</p> <p>地域の中でも地区の役員、民生委員、何とか委員を決めるときに、民生委員だけ温度が違います。民生委員からは、私達は行政の手下のように仕事をしているだけなのでという方もすごく多くなっています。</p>
会長	<p>学生でも消防団の担い手がいないと問題になっています。ですが、喜んでやってる学生はいます。</p> <p>学生たちはどうしてやってるんだろうと、自分もよくわかっていないです。</p> <p>でも、彼らが受けてきた教育や、生活環境の中でしっかりやらなくては行けないという思いが育ってきてる人たちなんだろうと思います。</p> <p>それが社会情勢によって、そういうことにコミットできる人たちがいないというこの社会の状況が大きな問題としました。</p> <p>なので、きちんとそういう方々を増やしていくための仕組み作りはとても重要と思っています。今の大人をどうするかはすごい難しい話ですが、子供たちから、どのようにコミュニティを維持していくのか、作っていくのか、そういう企画などをどんどん増やして、それを大人たちが見ていくという仕組みがあってもいいと思いました。</p> <p>この問題を解決するのは簡単ではなく、時間をかけてやらざるを得ない箇所と思いました。</p>
委員	<p>民生委員の話が出ましたが、民選委員だけでなくどんな役でも押し付けられてやっているとと思うのか、自分でこの役についての限りは頑張ろうと思ってやるかの違いだと思います。順番でやむを得なくやっている方もいますが、やる限りは頑張ろうと思ってやっている方もたくさんいると思います。</p>
委員	<p>全ての民生委員というわけではないです。どちらかという仕事の内容が自発的にやることよりも、これをやってくださいと言われてやる場合が多いです。</p>
会長	<p>地域の中で、多様な方々がきちんと生活していくためには、民生委員の方々がとても重要なお仕事だと思っています。そういう方々がきちんと活躍できる地域コミュニティをどう作っていくか、ご検討いただければと思いますが、国の政策の問題でもある気がします。ただ、掛川市としても一つ事例を作って、社会にアピールしていくことがとても重要だと思いますので、こういったところはチャレンジするところなのかと思いました。</p>
委員	<p>先ほど今の多死社会ではなく、今後将来の本格的な多死社会に向けてどうすべき</p>

発言者	発言内容
	<p>かを考えていかななくてはいけないということで、私もそれを今日思いながらここへ来ました。</p> <p>その点で考えると、13 ページの空き家対策の赤字部分ですが、対策ではなくて現状だと思います。</p> <p>例えば、「市場の流通が困難な老朽化空き家が主なものとなっています。」とあります。</p> <p>当然、空き家対策を色々な部署で色々な機関がマッチングを積極的にやっていくことは必要で、今後も続けていくところだと思いますが、借りてもないような空き家を今後どうしていかななくてはいけないのかの具体策を、この場で提言していかなくてはいけないと思います。</p> <p>空き家に限らず、今の政策の中でできることはここまでですと考えるよりも、今の政策をもっと改善して、ここまでやってかないと将来多死社会で、掛川市は生き残っていけないんだという、とんがった提案をみんなですていく必要があるのかなと感じています。</p>
会長	<p>ご指摘はそのとおりで、今回この資料の一つのポイントとして右側の列は、全て必要なあるとか、大切であるという記述になっています。</p> <p>今おっしゃられたことは、これが必要であるから何をやるの、というところがないというご指摘だと理解しました。そのとおりで、今回のこの会の趣旨としては、この後に掛川市の総合計画策定があります。</p> <p>その中で具体的な方法、何をやるかを今後議論いただいて、盛り込んでいく。</p> <p>盛り込むために何が必要なのか、というところを今回この右側でリストアップしていると理解していただくのがいいかなと思っています。なので、列の対応策案というのが、言葉としては対応案の方向性や、検討に必要なことという項目が入ると理解しております。今おっしゃられたとおり、皆さんには次の検討案でもいろいろご意見いただける機会はあるのではないかと思います。</p> <p>現状としてこういう案を入れて欲しいということも含め、現状理解を事務局でまとめていただいとご理解いただければと思います。</p>
<b>カテゴリー 3 「企業・労働」</b>	
委員	<p>17 ページの (1) 人手不足の【働く場の提供】です。</p> <p>高齢者や若者だけではなく、50 代後半の単身で、特に透析患者で生活苦の方がいます。</p> <p>年金はあっても金額が少なく、働かなければ生活設計ができないという透析患者がいて、高齢の方やそういった事情がある方が、短時間の軽作業業務のワークシェアのバンク的な仕組みがあると、事情がある方が短時間で働けるというところに繋がっていくのではないかと考えていました。</p> <p>社会福祉協議会でも社会福祉法人と社会貢献活動の中で、中間就労の授業を考えましたが、パートタイマーで働くところまでは難しく、職場体験的にやってみて、その後は、ハローワークなどで仕事を別に探していくような仕組みが限界でした。</p> <p>ソフトバンクではショートタイムワークがあり、岐阜市や伊勢市で超短時間雇用</p>

発言者	発言内容
	<p>創出事業を行っているのを新聞で見て、そういうことが働く場の提供につながっていくと思います。8時間働かなくても、年金プラスアルファがあることで、生活保護に至らなくなる、そういうものがないかと思っています。</p>
委員	<p>それは、タイミーのようなスキームバイト的なものをイメージされていますか。</p>
委員	<p>そうです。</p> <p>タイミーやバイトルなど色々なものがありますが、出てくる仕事は取り合いです。また、そこまでの体力やスキルがない方がいます。例えばコンビニの仕事に入るにはそれなりのスキルがないと、そこにもはまらない方もいます。</p> <p>1日歩き回って検品作業をしたり、コンビニのレジに入れたり、そこに至れない事情ある人たちがいます。</p> <p>他にも、メンタルが不調で体調に波がある方たちがいて、ワークシェアや超短時間雇用創出事業ができるといいので提案させていただきました。</p>
会長	<p>現在、自分も仕事で、誰でも、どこでも、いつでも働ける仕事のデザインやっていますが、タイミーもそうですが、どこでもではなく現場に行かないといけません。</p> <p>そうすると、自分が働ける生活の中で仕事の取り合いをしているような現状があり、実は仕事は全国にあり、掛川から色々なところで働けるリモートの仕事があればいいですが、コロナでリモートと言った割には社会に普及していない状況です。</p> <p>そういうことを含めて働き方のユニバーサル化のようなものが、私も重要と思っています。</p> <p>なので、今ご指摘いただいたところに関して、意見の「シルバー人材センターやタスクフォースセンター以外に、高齢者の方や働きたい方が」というところで、高齢者の方と働きたい方だけでなく、「誰でもいつでも」のような言葉を書いた方がよさそうです。</p>
委員	<p>県の社会福祉協議会で無料職業紹介の資格を取り行っていて、全国47都道府県の中でマッチング率がNo. 1です。</p> <p>実際にされている方に聞くと、1人工の力、能力がある人や1人分の仕事を欲しい会社、事業所はハローワークでやればいいです。</p> <p>福祉がやるべきマッチングが何かと言うと、1人分の力がなく0.8や0.5の仕事しかできない。ですが、事業所からすると、ちょっとした仕事ですが、そこまで給料を払えないという事業所がたくさんあり、そのマッチングをしています。</p> <p>それを民間企業やハローワークはやらないです。</p> <p>静岡県社会福祉協議会の東部の支所が沼津にあり、そこを一生懸命やっており、マッチングを何百件と毎年やっており、それが全国でNO. 1です。</p> <p>先ほど透析の高齢者の方の話あり、4ページに欠けているところがあり、「障がい者の保護者の高齢化に伴う」とありますが、障がい者も同時に高齢化することを捉えていないということがあります。</p> <p>障がい者自身、そして障がい者の保護者の高齢化に伴う、40ではなく50代後半の障がいをお持ちの方は、親亡き後どうするかという心配があり、対応策で、相談体制の充実を図って早い段階でグループホームに体験で入るといふことがあると良い</p>

発言者	発言内容
	<p>です。</p> <p>昨日、県の健康福祉大会で発表なされた方で、そのような活動をしているNPOの方がいました。知的障がい者の方の面倒を見ていて、グループホーム体験を行うことで、親御さんも見に来ていただいている。そのようなことを一生懸命されていて、自分が死んだあとも、この子はここに入る、そのような早めの相談と体験をさせてあげるといことをおっしゃっていました。</p> <p>なので、この部分は保護者だけではないです。透析の高齢者の方も同じです。</p>
委員	<p>ここのカテゴリーに、生産年齢人口というキーワードが出てきてないです。</p> <p>前日も言いましたが、働き手、担い手というところで見ると、掛川市の令和4年のデータですが、合併した17年当時と比べると生産年齢人口が15%ほど減っています。</p> <p>人数でいうと1万1,500人減っているという非常に厳しい現状です。</p> <p>これがもっと深刻化していく。</p> <p>その対策としてシニア、高齢世帯にもっと働いてもらう環境づくりもありますが、それも今後高齢化していき、カバーしきれないと思いますので、生産年齢人口をどうしたら確保できるのか、という策を載せるべきだと思います。</p> <p>例えば、掛川市に生産年齢人口の世帯の人が住んでくれば、市県民税をゼロにしますなどアドバンテージを持たせて、全国から人を集めたりする掛川ならではの政策を真っ先に打ち出す必要があるのではないかと私は考えています。</p>
会長	<p>若者たちをどのようにここに住んでもらうかというところが必要ということですね。</p>
委員	<p>もちろんここで生まれ育った子が、ここで働いてくれる環境作りも必要です。</p>
委員	<p>27ページの(2)に空き家の関係で、「空き家を解体した場合は特例の適用が解除され税金が上がるため放置され、課題となり苦慮している」と書いてあります。対応策として、利用がされないものを置いておいても仕方ないので、とがった発想で、税をその分だけ市が持つなどにより、「綺麗にしましょう。」「その方が資産の価値が上がります。」ということをして外から人を呼び込むなど、そういったことを書いた方がいいのではないかと思います。</p>
会長	<p><b>現実には予算の問題もあると思います。</b></p>
委員	<p>若い人が来てくれないというのは、魅力ある職場、企業がないのではないかと思います。</p> <p>企業活性化をしていくと、どんどん人も増え、移住してくれて、その人たちが住むと場所もないので、空き家を活用してもらおう。その企業が儲かっていくと市としても税収も増えていきますので、その税収を使って子育て支援を充実させさせていく。</p> <p>そうすると出生も増え、好循環になっていくのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>若い学生たちが貧しくなってる現状があり、昔は大学の寮がありましたが、徐々になくなってきています。静岡は一度住んだら、ずっと残っている学生が多いという典型的なまちらしいですが、そこで住居の支援、更に企業との繋がりで、奨学金を出す</p>

発言者	発言内容
	<p>など、産学官などで作っていくことは、若い人にとって魅力的かもしれません。</p> <p>ただ、100%ずっと残ってくれる保証はないので、リスクはありますが、魅力あるまちを作っていくためには、細かい取り組みが重要と感じます。</p>
委員	<p>企業だけでなく1次産業であれば、規模拡大による法人化でグローバルにやっていくなどあると思います。</p>
委員	<p>耕作放棄地に宅地の相談を空き家と一緒に受けます。農業はいろいろな資格や農業委員会の許可のハードル高いですが、農業ではなく、農を楽しむような、中間的な制度ができれば、市民の方が半分農業をして半分働くようなことがやりやすくなることで、この地域行こうかなって人が増えると思います。</p> <p>神戸が面白い制度行っていて、ネクストファーマー制度と言って、年間1,200時間、生産者について勉強すれば、農業の純資格のようなものがもらえ、農地を借りて2年間続ければ農家資格が得られるという、柔軟に対応しています。神戸に農業をやりに行く人がいる。掛川は農地が豊かなので、農業政策をここで考えることで、農地を使いやすいから掛川に住むという、だから空き家にも住むという流れもできるよう、耕作放棄地の欄に農のあり方を考えることを入れておいてもらおうと面白いと思います。</p>
会長	<p>制度的に農業のしにくさがあり、それをどうしたら解消できるか。いわゆる農家ではなく、農業をある程度、生活の中に入れていく方法が何かないということですね。</p>
委員	<p>大きいところは企業でやった方がいいです。でも、斜面地の茶畑は機械も入れにくいので、耕作放棄地は生やしっぱなしになっているはずですよ。</p> <p>もう少し市民に向けて使える制度があってもいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>都市計画の中で、農業、農地の問題が関わってくると思いますので、そういったアイデアを入れていただければと思います。</p>
<p>カテゴリー4「公共」</p>	
委員	<p>28 ページ（4）の「②家族・親族がいないファミリーレス化が進む」についてです。</p> <p>単身者の方がとても増えていて、生産年齢の方たちからの相談もあります。</p> <p>対応策に「高齢者実態把握調査により、社会的孤立予備軍の方々の状況を確認し」とありますが、高齢者だけではなく、40代、50代、60代の方の意識啓発も大事だと思います。</p> <p>先ほど、誰もが当事者になり得るとお話があり、誰に何が起きかわからないと思っています。</p> <p>介護保険が始まったとき、40代からの介護予防とすることがありました。</p> <p>私は当時、介護予防という言葉はピンとこなかったですが、自分が40代になり、40代からの介護予防という言葉はすごいと感じています。</p> <p>介護保険料を40代から払うということから、あなたたちも関係があることですよ、という話しだと思っています。</p> <p>社会的孤立の予備軍のようなところや、その先の人生についてファイナンシャルプランの意識を持っている方たちはすごく多く、とても良いことだなと思っています。</p>

発言者	発言内容
	<p>す。</p> <p>40代、50代、60代の方で意識しない人が来るので、もっと早く考えていたらと思います。</p> <p>なので、終活がフラットに話せるような啓発の仕方があると、おうちの後のことなども含めてやっていけると思うので、若い世代へのキャッチコピー的なフラット感がでる良いと思っています。</p>
委員	<p>同じところで、多死社会なので亡くなる方が多いですが、亡くなり方について、28ページでは、孤独死をさせてはいけない、孤立をさせてはいけないとなっています。</p> <p>お年寄りも、やむを得なく1人である方ばかりではなく、自ら選んで孤独でいたい人が多いです。</p> <p>施設で個室が良い方や、施設に入らない方の方は、やはり一人で自由でいたく、関わりたくないという方も多いです。</p> <p>高齢者だけでなく、50代、60代でも、1人で暮らしで、亡くなるのも1人で構わない、みんなに囲まれたところに行きたくない、ということがよくあります。</p> <p>その中で、一人暮らしの方をどうにか見つけて、手厚いケアをしなくてはならない、毎日見守りに行かなくてはならない、1人で死なせてはいけない、亡くなると自分の責任にもなるので、毎日何回か見に行かないといけないという義務感も起きてしまいます。</p> <p>なので、例えば、自ら1人を選び、見守りは1週間に1回してもらえれば自分で何とかできるという方が、亡くなられて1日、2日で発見できたのであればよいのではないのでしょうか。孤独を全てかわいそうだとか、どうにかしなくてはならないということは難しいです。</p> <p>多くの方が亡くなっていく中で、1人で亡くなっていく方はどんどん増えていくのではないかと思います。</p>
会長	<p>今の話は、高齢期の過ごし方は、色々な人のライフスタイルがあり、その方をうまく受け入れながらサポートしていく仕組みが必要であり、その方が支援が必要であることを言わなくてはならないタイミングがあるのであれば、それをうまく受け入れるサポートをできる仕組みのレベルであればよいという話でしょうか。</p>
委員	<p>高齢の一人暮らしの方が、若い方とのシェアハウスで人との関わりにより心が開かれると、すごくいいことだと思います。</p>
委員	<p>行政がやるべきこととして、望まない孤独を作らない、を入れればよいと思います。</p>
会長	<p>住民の方の考え方や、生活スタイルが多様化してるので、それをとらえていくことは重要な視点だと思います。</p>
委員	<p>36ページの火葬場の運営の意見に、「火葬待ちではなく、葬儀場待ちの状態です。」とありますが、「現在は」や「当分は火葬場待ちではなく、葬儀場待ちだと思われる」とかいう形に修正をお願いします。</p> <p>もう一点、「墓地の処分は告示行為等を行っていても、裁判で負ける」という言葉よりも、「告示行為等を行っていても、親族関係者より問題提起をされ難しい場合が</p>

発言者	発言内容
	<p>ある」という言葉の方が良いと思います。</p> <p>また、「地域墓地については、仏教会など関係箇所と相談をし、協力をして、お墓の整備が可能と思われる」という言葉の方が限定されるので良いと思います。</p>
会長	<p>自分は終活ノートやエンディングノートという言葉があんまり好きな言葉ではなく、人生設計ノートという書き方がいいかなと思っており、終活ノートやエンディング編とキーワードがあるので、揃えていただきたいと思います。</p> <p>皆さん、終活ノートを書いていく中で、すごいことを書いてるので、言葉が好みではないという自分の印象です。</p>
委員	<p>もう一点、文章の段が変わるときに前の単語の言葉が分割されてるので、見やすくしていただきたいです。</p>
会長	<p>市民の方が読んだ際、理解しやすいように最後、文章の書式も点検いただければと思います。</p>
委員	<p>構造の話で4ページの【介助難民の増加】の現状と課題に「実態の把握が困難となっている。」とあり、対応策(案)で、「将来予測の作成が必要です」となってます。</p> <p>「実態の把握が困難」に対して、「将来予測の作成」はつながらないと思うので違うことを書かれた方が良いと思います。</p> <p>5ページの現状と課題に、「介護離職状況の実態が不明である。」と線を引いてあり、その下の①に令和4年度の実態調査にて、こうであったと書かれてありますが、どういった関係にあるのかわかりにくいと思いました。</p>
会長	<p>最後に、現状と課題が各カテゴリーにまたいでいるものがあるので、現状と課題の点検をもう一度されてもよいと思いました。ですが、量が多いので、2番目のコミュニティでカテゴリーの再点検をしても良いのではないかという意見がありましたので、点検も含めて、現状と課題も再整理をしつつ、四つか三つのカテゴリーでまとめていただくのもよいと思います。</p> <p>重要なのは問題解決であり、課題課題の洗い出しは、ある程度整理できれば取り組めると思いますので、掛川市どのレベルまで整理し直すかというところは、ご検討いただければと思います。</p> <p>今日も活発に色々ご意見いただきありがとうございました。</p> <p>本日はこれにて議事が終了しましたので、進行を事務局の方にお返しいたします。</p>
7. その他	
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>また委員の皆様も大変熱心なご議論いただき、本当にありがとうございました。</p> <p>ここで、お礼も兼ねて、市長よりご挨拶をさせていただきます。</p>
市長	<p>本日も多岐にわたるご議論いただき、誠にありがとうございました。感謝申し上げます。</p> <p>移住や空き家関係のことがたくさんテレビに出てくると思いますが、先日、北海道のある町で、町営住宅のようなものを作っており、30年ほど住むと住居をタダであげることが紹介されていました。</p> <p>今日の議論の中で、例えば空き家を活用して住んでもらう方には、何年か住んだ</p>

発言者	発言内容
	<p>らあげるような政策があってもいいと思いました。</p> <p>今日の議論でもありましたが空き家対策は空き家対策、産業は産業というよりも、包括的なものを打ち出せるとよいと思いました。</p> <p>本日のご指摘の中に、対応策の記述がうまくないところなどもありましたので、本日、まだ言えていない部分がありましたら、引き続きご意見をお寄せいただき、残り2回の中で取りまとめに向けて、引き続きお力を賜ればと思います。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>第3回の会議については、12月13日 金曜日 13時30分から、場所は全員協議会室を予定しております。</p> <p>詳細につきましては、後日改めてご案内申し上げます。</p>
8. 閉会	
事務局	(省略)

会議終了後いただいた御意見	
委員	<p>P29の(4)【単身世帯の社会的孤立・孤独死・見守り支援】の「【現状と課題】孤独死等の身寄りのない方が亡くなった時に対応する人がいない」について。</p> <p>最終的には行政で対応するしかない事案であり、対応策(案)にあるとおり「対応マニュアルを作成」する必要はあると思います。</p> <p>一方で、今後増えると予想される身寄りのない人への対応をすべて行政(福祉課)が対応するとなると、職員が限られている中で大きな負担となっていくことが推察されます。</p> <p>身寄りがないと思われた方であっても、本人逝去後に行政が戸籍調査する中で、相続人が判明することがあります。生前にそのつながりが確認できていれば、本人の最期の尊厳を守ることにもつながると考えます。</p> <p>本人自身が生前にその動きをしてくださることが理想ですが、それが難しい場合でも、本人が何らかの福祉サービス(事業)等を利用し伴走支援を受けた際には、その支援機関とともに最期のこと(死後事務)について本人と考えていくことは可能と考えます。</p> <p>最終的に行政に対応を依頼するしかない方であっても、事前にできる必要な情報収集や準備をしておくことで、対応する行政職員の負担を軽減できると考えます。</p> <p>対応策として、身寄りがないと自称する人や本人逝去後に対応する親族がいない人に関わる支援機関が、本人への伴走支援として終活支援を働きかけていけるとよい。支援機関が連携することで、一機関の負担軽減ができる可能性がある。</p> <p>支援機関の職員が終活支援について具体的に学ぶ機会を検討できるとよい。</p> <p>P31の(6)【介護施設の確保】の「【現状と課題】施設老朽化への対応：小笠老人ホームとききょう荘の統合問題」「【現状と課題】介護保険外のサ高住(サービス付き高齢者向け住宅)等が多くできているが、お金のいる人しか入所できない」について。</p> <p>小笠老人ホームとききょう荘の統合問題の対応策(案)にある「集約化と効率的な</p>

	<p>施設運営」に期待しています。</p> <p>養護老人ホームは、介護保険対象外の「単身での生活が困難となった支援の必要な高齢者」にとって、料金的にも利用しやすい施設です。サ高住は課題にあるとおり、お金のある人しか入所できません。集約化した後の養護老人ホームが、利用者の衣食住と人との交流が保障された居場所として運営されることを期待しています。</p>
委員	<p>空家問題について</p> <p>売却できる家の空き家と買い手もつかない空き家があり、売却できるものでも空き家になってしまうものを前提にお話をします。</p> <p>売却できるが空き家になるものとしては</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 相続人（子供）がいるけど、空き家になる。</li> <li>② 相続人（子供）がいなくて、相続人を探すのと協議に時間がかかり空き家になる。</li> <li>③ 施設に入って空き家になる→家族信託で売却する。</li> </ol> <p>この中で②については遺言書を書くことで解消できます。遺言書を書くことで所有権が明確になり、お金に変えることができます。</p> <p>今までは遺言書が難しい、お金がかかる、書くメリットがない、という理由で書かない人が多いです。これを遺言書の相談できる先がある、お金がかからない、書くメリットがある状況にすればいいと思います。</p> <p>相談先は認知してもらう必要があり、費用に関してはフリーウィルズキャンペーンを使っただけであれば解消できます。</p> <p>書くメリットは人によって違うと思いますが、誰かの役にしたいという欲求が弱くても、迷惑をかけたくないという気持ちを持つ方はいます。</p>